

# 東北学院大学金子研究室川内村プロジェクト

## 2024 年度活動報告書

### 1. 活動の主旨

本報告書では、つぎの3点について整理してゆく。第1に本プロジェクトの主旨、第2に2024年度の活動内容、そして第3に今後の展望である。以下、これらについて順を追って記述する。なおプロジェクトの主旨に関しては、昨年度までと大きな変更がないため、共通の内容する部分が多い。

昨年に引き続き、本プロジェクトは、双葉郡川内村第七行政区での集落復興活動を行なった。私たちの活動は、「大学生の力を活用した集落復興支援事業」の枠組みでは、4年目に位置づけられ、伴走支援にあたっている。ただ、今年度は昨年度まで2年にわたって携わってきた学生たちが卒業し、まったく新たなメンバーでのスタートとなった。そのため、学生側は初年度といって良いほどに新たに活動を始めることとなった。

このような事情があったため、本格的な活動開始まで、今年度はどのように活動を進めていくか複数回にわたって事前調整を実施した。その結果、震災後の経験についてお話しいただく研修会を実施すること。また、諏訪神社祭礼に合せて、夏季の合宿（集中調査）を実施することに決定した。

先行する活動で見出された課題を引き受けながら、参加メンバーは今年度初めて川内村で活動を行なった。ここでいう明らかになった課題とは、つぎのようなものである。川内村は原発事故により避難を余儀なくされた。その後いち早く帰村を選択したため、帰村率の高い水準にある。だが、震災後、過疎・高齢化が急激に進行している事実が明らかになった。とりわけ、これまで継承されてきた地域文化が衰退しつつあるという現状を把握することができた。寺社仏閣、堂宇・小祠といった、これまで集落単位で維持してきた地域文化が、維持し難くなっている現状を見聞きした。

私たちは、民俗学を専門としており、この領域では現地に出向き、緻密な聞き取り調査を行なう、フィールドワークを重要な研究手法としてきた。この方法を学んでいる私たちは、たんに地域の人びとと交流するだけではなく、民俗学の方法論にもとづいたフィールドワークを実施する計画である。すなわち、私たちの活動の目的は、民俗学の手法によるフィールドワークを通じて、集落の人びとが抱えている課題を把握し、また、その集落が持ち伝えてきた文化的資源を掘り起こすことで、少しでも地域の復興や集落維持のサポートを推進してゆくことにある。

地域課題と私たちの強みとを総合し、今年度の調査も、地域で大切に守られてきたが、担い手不足が深刻化しつつある地域寺社の調査に取り組みたいと考えている。とりわけ寺社の歴史的な分析を行なうことにより、この地域において当該寺社がいかなる由来・由緒や来歴をもつものであるのかを明確化していきたい。このような調査・研究を進展させることで、地域内で寺社を維持するモチベーションを高めていただくことや、外部からの支援の可能性がひろがるものと期待している。

つまり、私どもの狙いは、地域の文化的資源を活かした復興である。このような取り組みは、インフラの復興とは異なり華々しさはないが、地域に住む人びとにとって重要なものであると確信している。これが私たちの活動理由であり、民俗学の視点を活かして、現状のままでは失われてしまう可能性のある地域資源を掘り起こしながら、地域の復興・持続へとつなげることを目指している。

## 2. 本年度の活動内容

ではつぎに、本年度の活動状況について説明する。本年度の活動内容は、下記の表1にまとめられる。以下、本年度の活動について説明してゆく。主な活動はつぎの2つである。①諏訪神社資料（幣束立て）の整理、②第七区内の小祠調査（棟札調査）を実施することとし、計画的に実施していった。

表1：今年度の主な活動内容

| 年月日          | 場所       | 主な内容                                                               |
|--------------|----------|--------------------------------------------------------------------|
| 2024年6月28日   | 第七区      | 本年度の活動内容についての打ち合わせ<br>久保田区長との打ち合わせ                                 |
| 2024年7月19日   | 第七区      | 集落点検法による集落調査                                                       |
| 2024年8月8日    | 第七区      | 夏季休業中の集中調査についての打ち合わせ。諏訪神社祭礼の参与観察を行うかたちで実施することに。久保田区長や諏訪神社さんとの打ち合わせ |
| 2024年9月7-10日 | 川内村内&第七区 | 諏訪神社祭礼参与観察（下川内・高田島）<br>神社資料の借り受け                                   |
| 2024年10月24日  | 土樋キャンパス  | 冷凍殺虫作業<br>諏訪神社資料（幣束立て）<br>以降定期的に、クリーニングおよび目録作成作業を学内で実施             |
| 2024年10月25日  | 第七区小田代   | 棟札調査                                                               |

|                            |          |                     |
|----------------------------|----------|---------------------|
|                            |          | 現況確認                |
| 2024 年 11 月 4 日            | 第七区小田代   | 棟札調査<br>八雲神社・山神社など  |
| 2024 年 11 月 29 日           | 第七区小田代   | 棟札調査<br>稲荷神社・女山神社など |
| 2024 年 11 月末～<br>25 年 1 月末 | 土樋キャンパス  | 棟札調査の報告書作成          |
| 2025 年 1 月 5 日             | 川内村内&第七区 | 正月行事調査<br>現況調査      |





①諏訪神社資料(幣束立て)については、神社のご協力を得て資料を貸与していただいた。100本を超える点数を確認することができた。これらをクリーニングおよび冷凍殺虫を実施した。さらに、実測と資料目録作成をすすめた。2025年2月末時点で、資料カード作成まで実施することができた。今後、入力作業と、写真撮影を進めていき、最終的には学術報告書の作成を行いたい。

②七区内の小祠調査については、今年度は小田代地区の小祠の悉皆調査を実施した。その際に、奉納されている棟札・幣束立てについての記録を作成した。現地での実測と、集会所をお借りしての資料撮影を実施した。この成果は、2025年3月刊行予定の『福島県民俗』に掲載される予定である(「川内村小田代集落を事例に一棟札からみた集落内小祠とその祭祀」『福島県民俗』(53))。

### 3. 今後に向けて

本プロジェクトは2019年度に跡見学園女子大学でスタートした。その後、コロナによる中断期間と、教員の異動を経て東北学院大学にて再スタートをきった。2022年・23年実施され、今年度まで4年にわたって活動することができた。これまでに携わった学生は、のべ50名を超えており、事業の助成をしていただいたことでこれだけ多くの学生たちが、集落での活動を実施することができた。ご協力いただいた第七行政区のみなさまと地域振興課

には、心より感謝申し上げる次第である。

この枠組みでの活動は終了となるが、今後も細く長く継続できればと考えている。今年度作業を進めた、①諏訪神社資料（幣束立て）は次年度に学術報告書が完成できるように進めていきたい。また、②小祠調査については、小田代以外のヤシキについても進めていけたらと考えている。